

温海地域主要事業について

意見交換資料1

※達成度…◎達成、○概ね達成（概ね順調に進んだ）、△達成できなかった、×未実施

NO	総合計画または地域振興計画上の位置づけ 事業名	事業主体	事業内容	R7事業費 (千円)	令和7年度取組予定	令和7年度取組実績 (年度末見込み)	取組評価		令和8年度取組予定
							達成度	評価・課題	
【総務企画課】									
1	【地域まちづくり未来事業】 温海地域支援ネットワーク推進事業 (継続)	市 事業実施 団体	人口減少が背景となって発生する諸課題の解決、地域の活性化を図るため、地域を離れた人材や地域と多様な関わりや想いを持つ人材（関係人口）を、新たな「地域の担い手」として受け入れるための仕組みづくりを進める。	580	【温海地域若者ネットワーク創出】 ・実際にまちづくりに取り組む若者（県外1名、県内1名）を講師として招致し、研修会を開催。実践している取組みや、まちづくりに対する考え等を学び、温海地域における若者のネットワーク形成の契機とする。 【温海地域関係人口拡大推進】 ・温海の関係人口を増やす会（略称：あつかん）の活動を支援 <活動内容> ・広報活動により、地域の行事等へ首都圏の若者を呼び込む。 ・自主企画のイベントを実施 ※現在の「あつかん」は6名（温海在住4名、首都圏在住2名）で構成されているが、さらに仲間を増やしていきたい。	【温海地域若者ネットワーク創出】 ・実際にまちづくりに取り組む若者（県外1名、県内1名）を講師として招致し、研修会を2回開催。 【温海地域関係人口拡大推進】 ・温海の関係人口を増やす会（略称：あつかん）の広報活動や自主企画イベントの開催を支援した。 <活動内容> ・広報活動により、リゾートバイトや地域の行事等へ首都圏の若者を呼び込んだ。 ・自主企画のイベント「写真展」の開催と同時に日替わりで関係人口によるトークを実施。期間中約130名来場 ※現在の「あつかん」は7名（温海在住4名、首都圏在住3+19名）で構成。	◎	【評価】 【若者ネットワーク】 ・2回の講座によって、まちづくりへの意識を啓発するとともに、若者同士の交流の場とすることができた。 【関係人口拡大推進】 ・「あつかん」の活動を支援したことによって、新たな関係人口の確保ができた。 ・「あつかん」が2月に開催した写真展では100名以上の来場者があり、関係人口と地域の交流に寄与することができた。 【課題】 【若者ネットワーク】 ・若者のネットワークづくりは、ライフスタイルの多様化によって難しく、引き続き、市も関与しながら地域づくりを意識していくための取組が必要がある。 【関係人口拡大推進】 ・団体活動の自走に向けて、自主財源の確保等を検討する必要があるため、「あつかん」の地域への浸透を重視し、今後も活動を支援する必要がある。	【温海地域若者ネットワーク創出】 ・実際にまちづくりに取り組む若者（県外1名、県内1名）を講師として招致し、研修会を開催。実践している取組みや、まちづくりに対する考え等を学ぶ。 【温海地域関係人口拡大推進】 ・あつかんの活動の支援を継続し、温海地域に関わる人を増やす。
2	【地域まちづくり未来事業】 温海地域家族まるごと移住体験事業 (継続)	市 あつみ福 社会 事業実施 団体	都市圏在住で、子どもの教育に熱心な親世代に、自然豊かな地での保育、体験の場を提供し、親子と温海地域との関わりしるを作り、移住・二地域居住を目指す。	5,314	・5月から受入開始。目標を10家族、180人泊に設定し事業継続 ・7月中旬から8月一杯までの期間限定で、新規宿泊先での受入を実施予定 ・事業報告会（地域住民向け）の実施を検討し、地域住民への周知を図る。	・10家族231人泊の受入実績となり、目標値を達成した。うちリピーター1家族。 ・新規宿泊先として「たちばなや」を追加したが、当宿泊先での受入は0件。	○	【評価】 ・目標を達成することができた。また、リピーター参加やこれまで保育園留学に参加された家族のプライベートでの再来があり、関係人口の拡大に寄与できた。 【課題】 ・保育園・宿泊先の受入日程調整を円滑に進め、保育園留学に多くの参加家族を募り、最終的には事業報告会を開催するなど取組の共有を図る必要がある。	・5月から受入開始の見込み。目標値を15家族270人泊と設定し、事業を継続する(3年目)。 ・地域未来交付金の交付最終年度であることから、令和9年度以降の財源確保に向けて、他市町村等と連携しながら、事業継続を目指す。 ・事業報告会を実施し、地域住民への周知を図る。
3	【地域まちづくり未来事業】 温海地域教育環境充実事業 (継続)	温海生涯 学習振興 会	地域の教育環境の充実のため、地域おこし協力隊を1名配置し、地域と学校の連携・協働による中学校への学習支援の充実や、新学習指導要領にも定められた「生きる力」「非認知能力」を育む教育を推進する。	5,200	地域おこし協力隊員の活動を支援する。（令和7年度は3年目） ・ミッションに加え、自習室開放等を展開 ・多世代交流フリースペースの試行運営 ・起業に向け、キャリアコンサルタントの資格取得 ・活動報告会	・ミッションに加え、夏休み自習カフェ及び自習室の無料開放を計8回実施。夏休み自習カフェは、鼠ヶ間公民館、山五十川公民館、越沢センター、小名部公民館。自習室の無料開放は温海ふれあいセンター。 ・3月30日のコミュニティスペース開業を目標に準備中。 ・国家資格キャリアコンサルタントを取得済み。 ・3月17日、活動報告会を実施する。報告会は、2部構成とし、第1部において活動報告を第2部においては京都在住のゲスト3名を招きクロストークを行う。	◎	【評価】 ・夏休み自習カフェ及び自習室開放について、開催期間を夏休みに設定したことで、小学生から高校生までの幅広い年代が集う学びの場・機会を提供することができた。昨年度の参加者が今年度はスタッフとして参加するという担い手の循環が生まれた。 【課題】 ・地域おこし協力隊員の退任に伴う事業継続の必要性について、ニーズを踏まえ検討する必要がある。	【令和7年度で事業終了】 ・令和7年度で地域おこし協力隊員が退任となるため、この事業は終了となる。

NO	総合計画または地域振興計画上の位置づけ 事業名	事業主体	事業内容	R7事業費 (千円)	令和7年度取組予定	令和7年度取組実績 (年度末見込み)	取組評価		令和8年度取組予定
							達成度	評価・課題	
4	次代を担う人づくりの推進 (適正な教育環境の整備) 高校生等遠距離通学費 支援事業 (継続)	高校生等 保護者等	温海地域から中学・高等学校等に通学する生徒を持つ世帯に対し、通学費の一部を支援することで、家庭の負担を軽減し、地域への定住化を図る。 ※申請交付手続きのデジタル化 ※致道館中学校も対象 (令和6年度から全市展開)	16,208 (市全体)	通学費支援制度の周知と申請や交付手続きをサポートし保護者等の負担軽減を図る。 ・市ホームページ、市公式LINE、市広報や庁舎からのお知らせ等で通学費支援制度を周知する。 ・窓口に申請で来られた方へデジタル活用も含めたサポートを行う。 ・致道館中学生、高校生の保護者の方へ学校を通して通学費支援制度のチラシを配付する。	【補助金交付】※4～2月末受付分 ・申請件数126件(実人数56人) うちLINE申請99件(利用率78.6%) ・交付決定126件 うち電子交付57件(利用率57.6%) ※電子交付利用率は、LINE申請のうちの電子交付 【周知】 ・制度や申請手続きについて、市ホームページで周知するとともに、致道館中学校、各高等学校等に対し、保護者への周知を依頼した。	◎	【評価】 ・制度の周知と申請や交付の手続きをサポートしたことから、高校生等の通学費の負担軽減とデジタル活用(LINE申請・電子交付)による申請手続き等の負担軽減を図ることができた。 【課題】 ・保護者への周知を依頼した。	通学費支援制度の周知と申請・交付手続きをサポートし保護者等の負担軽減を図る。 ・市ホームページ、市公式LINE、市広報等で通学費支援制度を周知する。 ・窓口に申請で来られた方へデジタル活用も含めたサポートを行う。 ・致道館中学生、高校生の保護者の方へ学校を通して通学費支援制度のチラシを配付する。
5	交流・連携の推進と基盤の整備(公共交通ネットワークの形成) 温海地域公共交通運営事業 (継続) (乗合タクシー運行事業)	協議会	乗合タクシー運行を支援する。地域住民や関係団体の声を反映させた運行と、地域住民への周知を強化することで利用拡大を図り、持続可能な公共交通を目指す。	22,000	・乗合タクシーの利用目的は通院や日常的な買い物が多いが、日帰り温泉入浴や食事等娯楽でのお出かけにも利用してもらえるような取組を検討する。 ・地域住民から身近で気軽に利用できる公共交通と認識してもらえるように、引き続き、各集落や各団体での説明会や湯ったり号通信の発行を行う。 ・利用者の意見やJRの乗継を考慮し、時刻表の改正や経路の見直しを行う。	・改正時の周知(市ホームページ、時刻表全戸配布等) ・時刻表、乗降場所の見直し ・集落や研修会等での説明(寿燦々塾、小国お茶の間サロン) ・生活支援コーディネーターとの連携 ・関係機関との意見交換会(温海温泉観光自動車、もみじが丘作業所) 【乗合タクシー利用実績】 対象路線：戸沢線、平沢線、関川線 利用者数(4～2月) 令和6年度 13,349人 令和7年度 14,081人 対前年比 +5.5%	○	【評価】 ・時刻表改正時、住民への周知のほか、各所へ時刻表を配付し周知に努めた結果スムーズに移行できた。 【課題】 ・乗車マナーについて周知が必要であり、乗り方を含め、利用者が気持ちよく気軽に利用できるような周知や工夫が必要である。	・時刻表等の改正の際に、乗車マナーや乗り方の周知にも努め、誰もが利用しやすい環境を整える。 ・運行事業者との連絡を密にし、道の駅あつみ移転に伴う経路等の見直しを検討する。
6	地域における人づくりの推進(市民の多様な学習活動の推進) 地域学校協働活動推進事業 (継続)	各地域学校協働本部	【あつみ小学校】 ・登下校の安全確保、学習支援 【鼠ヶ関小学校】 ・学習支援、郷土学習、環境整備 【温海中学校】 ・あつみ地域未来塾	2,500 (市全体)	【あつみ小学校】 ・登下校の安全確保 ・読み聞かせによる学習支援 【鼠ヶ関小学校】 ・放課後児童クラブの実施 【温海中学校】 ・あつみ地域未来塾の開講 ・あつみ地域未来塾の通塾困難者に対する支援の検討	【あつみ小学校】 ・見守り隊の保険加入(52名)、読み聞かせ(17名)による学習支援。 【温海中学校】 ・あつみ地域未来塾の開講(8月30日～2月28日・温海中学校3年生35名中30名の申込み)	○	【評価】 (あつみ小学校) ・当初の予定どおり各活動を実施することができた。 (温海中学校) ・20回のあつみ地域未来塾、9回の自習室開放を実施することができた。 ・自習室開放については、今年度から温海中学校会場を追加することができた。 【課題】 (温海中学校) ・第15回終了時点における平均出席率が、令和6年度は74%であるのに対し、令和7年度は66%に減少した。 ・公立高校入試制度の変更が理由かと思われるが、講義期間の途中で不参加(離脱)する受講生が7名いた。 ・通塾困難者に対する支援として、講義のオンライン配信を用意していたが、利用希望者がいなかった。	【あつみ小学校】 ・見守り隊による登下校時の児童見守りを実施する。 ・読み聞かせによる学習支援を実施する。 【温海中学校】 ・令和7年度の課題を踏まえながら、カリキュラムの変更を視野にあつみ地域未来塾を実施する。

NO	総合計画または地域振興計画上の位置づけ 事業名	事業主体	事業内容	R7事業費 (千円)	令和7年度取組予定	令和7年度取組実績 (年度末見込み)	取組評価		令和8年度取組予定
							達成度	評価・課題	
7	海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備 【地域まちづくり未来事業】 温海地域生きる力を育む教育推進事業 (継続) ※R7名称変更	市	温海地域の豊かな自然と文化資源を生かし、「生きる力」を高め豊かな心を育む教育（SEL）プログラムを実践するための環境整備に取り組む。 あつみ福祉会との連携を継続し、年長園児の交流や講師による各園訪問指導を実施するとともに、学校教育への導入を進めるため、市教委地域担当指導主事と連携し、小中学校教職員を対象とした研修会を実施する。 本取組を積極的に情報発信する。	1,277	温海地域SEL教育アドバイザー業務委託契約締結し、三森朋宏氏を講師とした研修会等を実施 ・年長児交流事業（自然活動の中で育む交流保育） ・保育園SEL研修、訪問指導 ・小中学校SEL研修、訪問指導 ・プロジェクトチーム会議開催 ・年長児交流事業（自然活動の中で育む交流保育） ・温海地域3校合同研修会 ・地区別SEL研修会 ・SEL教育オンラインセミナー（実践者による事例発表） ・教職員対象SEL特別研修会（新規）	温海地域SEL教育アドバイザーの三森朋宏氏を講師に研修会等を実施 ・保育園・小中学校訪問指導 ・温海地域3校合同研修会 ・鼠ヶ関小PTA研修会 ・（新規）鼠ヶ関小で講師による道徳の模擬授業 ・（新規）保育士教師対象EQ基礎研修 ・（新規）マスコットキャラクターの製作 ・地方自治研究機構「先進事例調査研究」に事例紹介（HP掲載） ・11/8、山形新聞に記事掲載 ・11月、温海文化祭で活動状況のポスター展示	◎	【評価】 ・保育園では、日常保育の中で実践は定着している。 ・学校では、複数年継続により理念の浸透は進んでいる。 ・模擬授業は好評であり、「実際に見たい」という先生方の声が多い。継続して実施し、具体的な授業のイメージを見せていく。 【課題】 ・保育園では、成果が「当たり前」になり、職員が成果を実感しにくくなっており、来年度は一步進んだ研修が求められた。 ・学校では、教師が理解した内容を授業や生徒指導の実践へどのように結び付けるかに課題を持っている。	温海地域SEL教育アドバイザーの三森朋宏氏を講師に研修会等を実施 ・保育園・小中学校訪問指導 ・（新規）新任職員対象SEL導入研修 ・（新規）家庭教育講座 ・（新規）SEL先進校かえつ有明中高等学校、佐野副校長講演会 ・（新規）マスコットキャラクターの愛称募集 ・（新規）保育士、教師意見交換会
8	海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備 【地域まちづくり未来事業】 温海地域養蚕環境整備事業 (継続)	福栄養蚕振興会	福栄養蚕振興会による養蚕の取組を支援し、「鶴岡シルクタウンプロジェクト」の推進と地域活性化、高齢者の生きがいを促す。	783	引き続き福栄養蚕振興会の活動を支援する。 【活動内容】 ・稚蚕飼育の実施と県内各農家等への出荷 ・松ヶ岡産業㈱への幼虫の出荷 ・令和8年度以降の実施体制の検討	福栄養蚕振興会の活動を支援した。 【活動内容】 ・稚蚕飼育の実施と県内各農家等への出荷 ・松ヶ岡産業㈱への幼虫の出荷	◎	【評価】 ・福栄養蚕振興会の活動を支援し、今年度は、予定どおり取り組むことができた。 ・令和8年度以降の実施体制検討した結果、福栄養蚕振興会は、会員の高齢化、指導員が転職したことと養蚕業の将来性が薄いことから、今年度をもって解散することとした。	【令和7年度で事業終了】 ・養蚕場として利用していた旧福栄小の養蚕道具の整理・片付け。

NO	総合計画または地域振興計画上の位置づけ 事業名	事業主体	事業内容	R7事業費 (千円)	令和7年度取組予定	令和7年度取組実績 (年度末見込み)	取組評価		令和8年度取組予定
							達成度	評価・課題	
【市民福祉課】									
9	海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備 【地域まちづくり未来事業】 温海地域支え合い訪問活動事業 (R7新規)	市	地域で暮らす高齢者等が集うことにより、フレイル予防、引きこもり防止が期待され、交流・会話することで互いの困りごとや安否確認ができることともに、住民同士の助け合いの意識が高まることを目的として事業実施する。	80	高齢者等の集いの場などが確立されていない集落（令和6年度時点では10集落）に対して、自治会や民生児童委員の協力のもと高齢者等に声がけを行い、年間3回程度テーマを設け集いの場を創出する。 ・お茶のみサロン、フレイル予防、地域外研修活動の実施 ・令和7年度は、4集落で実施 ・事業期間は3か年とし、10集落で実施	今年度は、4集落（安土、越沢、鍋倉、小名部）で実施した。 お茶のみサロン6回、フレイル予防4回、地域外研修活動3回の実施を行い、2月末現在で延べ128名の地域住民が参加した。 3月に、お茶のみサロンを3集落で実施予定である。	◎	【評価】 ・自治会や民生委員の協力によって、開催ができた。 ・3集落で地域外活動を実施し、ごみ焼却施設の見学や買い物バスなど好評であったため、次年度も開催してほしいと依頼されている。 【課題】 ・参加者が増えるように声掛けなどの工夫が必要である。	次年度は、3集落（小菅野代、湯之里、釜谷坂）で、お茶のみサロン、フレイル予防、地域外研修活動を実施する。 7年度実施した4集落には、お茶のみサロンや地域外活動を数回継続して実施する。
10	資源循環型社会の形成 (ごみ減量・資源化の推進) 塵芥収集事業 (継続)	市	地域内の各家庭より排出される家庭ごみ（一般廃棄物）の収集運搬業務を委託する。 また、温海地区衛生組織連合会の集団資源回収を支援し、古紙や瓶を別途回収し一般廃棄物の削減を図る。	435,453 (市全体)	・ごみ減量、再資源化の意識高揚のため、ごみ分別講習会、ごみ処理施設見学会を各自治会の協力を得て定期的に開催する。 ・啓発チラシの作成、全戸配布によって、分別方法の周知を図るほか、パネル展示の実施等、機会を捉えて啓発活動を実施する。 ・年間計画に基づき四半期に一度、強化月間を定めて古紙集積所の早朝巡回指導を実施する。	ごみの減量化、再資源化の推進を目的として、ごみ処理施設見学会を5回、ごみ分別講習会を5回開催したほか、啓発チラシの作成、全戸配布を3回実施した。 また、令和6年度から重点的に取り組んでいる古紙の適切な排出を進めるため、古紙の出し方が改善されない自治会を対象に、資源回収ステーションの巡回指導を6月、9月、12月、2月の4回実施している。 令和7年度のごみ回収量は対前年比で可燃が△4.8%、不燃が△4.8%であり、家庭ごみの収集量が減少する中でプラ・ペットの資源物が3.6%増加している。	◎	【評価】 ごみ分別講習会やごみ処理施設見学会の実施依頼が昨年度よりも増加し、啓発チラシの配布回数も昨年度よりも増やし、資源物、一般廃棄物の分別が概ね徹底された。再資源化への理解が深まっているものと考えられる。 【課題】 ごみの処理や再資源化に興味のある方の見学会や講習会への参加や問い合わせは増加傾向にあるものの、より再資源化への理解を促進するため見学会等の実施や啓発を継続する必要がある。	ごみ減量、再資源化の意識高揚のため、ごみ分別講習会、ごみ処理施設見学会を各自治会の協力を得て定期的に開催する。 また、温海地域の子どもたちにも地域の環境について考えてもらう機会を増やすため、小学校を対象にした環境学習を実施する。 ・啓発チラシの作成、全戸配布によって、分別方法の周知を図るほか、パネル展示の実施等、機会を捉えて啓発活動を実施する。 ・古紙の適切な排出を継続させるため、強化月間を定めて古紙集積所の早朝巡回指導を実施する。
11	子ども・家庭・地域がともに健やかに育つ環境の充実 (子育て世帯の負担軽減) 民間保育所等への各種補助事業(温海地域保育園通園事業補助金) (継続)	事業実施団体	保育園の統廃合に伴う保護者負担軽減のため、あつみ福祉会が行う保育園通園事業に対して経費の一部を補助する。	16,918	利用予定に基づいた従来通りの補助金の交付。 〈参考〉 あつみ保育園 海側 ジャンボタクシー 山側 小型タクシー 鼠ヶ関保育園 ジャンボタクシー	延べ運行回数 あつみ保育園：海側480回・山側462回 鼠ヶ関保育園：470回 利用者 あつみ保育園 4月～9月～ 8名 9名 鼠ヶ関保育園 4月～ 6名	◎	【評価】 遠方からの通園に伴う費用と時間の負担を最小限に抑え、利用者の増減に応じて車両を変更したことで保護者の負担軽減と市の補助金支出の抑制が図られた。 【課題】 料金改定により運行経費が増額となる（改定率12.76%）引き続き通園に伴う保護者の負担軽減と、利用者の増減に応じた使用車両の調整で経費の削減に努める必要がある。	利用予定に基づいた従来通りの補助金の交付。 〈参考〉 あつみ保育園 海側 ジャンボタクシー 山側 小型タクシー 鼠ヶ関保育園 ジャンボタクシー
12	子ども・家庭・地域がともに健やかに育つ環境の充実 (子どもの居場所づくりの推進) 放課後児童対策事業 (継続)	市 事業実施団体	保護者が就労等により留守になる小学生を対象とした放課後児童クラブの運営を支援し児童の健全育成を図る。 (あつみ保育園に併設するあつみこクラブ) ※利用料月額6,500円 (長期休暇、2人目以降等加算有)	545,210 (市全体)	児童の減少は今後も続く見通しの中、核家族化によって令和7年度は、前年以上の利用者数が見込まれる。	登録者数46名 長期休暇は8:00～18:30開所 上記以外はあつみ小学校退校時刻～18:30保育を行っている。 また、小学校の臨時休校や振替休日は開所し対応している。 ・鼠ヶ関小学校の児童が平日利用したいニーズに応えるため、2学期の開始に合わせ、車庫に戻るスクールバスを活用して希望者を乗車させている。	◎	【評価】 児童の減少は今後も続く見通しの中、児童が放課後に、安心安全に過ごすことができる環境を整備し、児童の健全育成の向上につながった。 【課題】 定員30名に対し、登録者数が53名となっており、狭小化の問題は増築工事の完成を待つ状況となっている。	児童の減少は今後も続く見通しの中、核家族化によって、令和8年度は引き続き利用者数の増が見込まれる。 ・登録者や利用者数の状況を踏まえ、今後の利用方法について関係機関と調整を図る。

NO	総合計画または地域振興計画上の位置づけ 事業名	事業主体	事業内容	R7事業費 (千円)	令和7年度取組予定	令和7年度取組実績 (年度末見込み)	取組評価		令和8年度取組予定												
							達成度	評価・課題													
13	健康診査事業 (継続)	市	糖尿病、循環器疾患などの生活習慣病の予防やがんの早期発見のため、年1回の定期的な健診と健診結果に基づく指導を行い、働き盛りからの健康管理と高齢期における健康保持を目指す。	183,957 (市全体)	いきいき健康つるおか21プラン(令和7年度からの計画)に基づき、 ・生活習慣病を予防する第一歩となる住民健診と保健指導を身近に受ける機会提供として、集団健診の実施に取り組む。 ・鶴岡市認知症予防重点地区の指定を受け、認知症について正しい知識の普及啓発と相談に取り組む。 ・健診会場の集約について検討する。 ・生活習慣病の予防について、周知と個別の指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・集団健診は予定した16回を実施。 ・集団健診会場で保健指導を実施。 ・次年度の特定健診とがん検診の意向調査実施。 ・今年度認知症予防重点地区として、健康教育や老人クラブ、広報等を利用して認知症予防や生活習慣病予防の普及啓発を行った。 ・温海地域保健推進委員会と共にあつみ健康のつどいを開催し、徳洲会庄内余目病院の今野恵美看護師より、講演をいただき、知識を普及した。また、音楽健康指導士の佐藤美由紀氏より、音楽に合わせて運動を行い、認知症予防について普及啓発を行った。 	◎	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康課や庄内地区健康管理センターと連携し、各地域の公民館等で実施する集団健診について、実施の周知と受診会場の環境整備を行った。 ・認知症予防をはじめとする健康に関する普及啓発を実施できた。また、健康教育等の開催に向けた働きかけを行い、自治会等からの健康教育の依頼を受けることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少に伴う受診者数減少のため、健診会場の集約等の検討が必要である。 ・温海地域は、高血圧などの生活習慣病の割合が全市平均より高いので市民への周知と個別指導を行う必要がある。 	いきいき健康つるおか21プランに基づき、 ・生活習慣病を予防する第一歩となる住民健診と保健指導を身近に受ける機会提供として、集団健診の実施に取り組む。 ・温海地域は高血圧など生活習慣病の割合が全市平均より高い傾向にある。健診の重要性や生活習慣改善にむけての正しい知識の普及と行動変容に向けた啓発を継続して取り組む。												
14	障害者が自立して暮らせる地域共生社会の実現(障害者地域生活支援の環境整備) 重度心身障害(児)者社会参加促進事業 (継続)	市	障害者の社会参加を進めるため、タクシー券(500円×36枚)、又はガソリン券(500円×18枚)を交付し、利用料金等の一部を助成する。 ※対象者：身障1級～3級、療育A、精障1級の手帳保持者	23,891 (市全体)	新規手帳取得者で交付対象となる方へ、手帳受取時に概要を丁寧に説明し理解を得たうえで申請につなげる。未申請の方からも随時申請を受け付けるとともに、別件で来庁された際に、申請状況を確認し対処する。	交付対象者は左記手帳所持者で、温海地域の対象者数は203名。 申請状況：タクシー券 83名 福祉給油券 72名 タクシー利用料金または自家用車の給油料金の一部を助成し、障害者の社会参加を促進し、福祉の増進を図っている。	◎	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未申請者へ12月下旬に交付申請を促す文書を送付したが、申請に至らなかった。 ・未申請の理由として考えられるのは、対象者の施設入所によるものが大きいと考えられる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者のうち高齢者が80%を超えているため、障害福祉のサービス自体を理解せずサービスのつながっていない対象者の把握が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規手帳取得者で交付対象となる方へ、手帳受取時に概要を丁寧に説明し理解を得たうえで申請につなげる。 ・未申請の方からも随時申請を受け付けるとともに、別件で来庁された際に、申請状況を確認し必要に応じて申請を促す。 ・市広報で、当該事業の周知を行う。 												
15	高齢者が健康で生き生きとした地域の実現(介護予防の充実と社会参加の促進) つるおか元気アップ支援事業(地域介護予防活動支援事業補助金) (継続)	市 事業実施団体	公民館等の施設を活用し、体操等の介護予防活動を主体的・継続的に実施する団体に補助金を交付し、高齢者の健康の維持増進を目指す。 補助要件：月2回以上の活動、年4回外部の専門職から指導受ける等	3,250 (市全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア推進課と包括あつみ職員と各団体へ介護予防や軽体操の現地指導を行う。 ・新規申請や実施方法等の相談を随時受け付ける。 	<p>今年度受付分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請件数6件(6団体、104人) ・交付決定6件 ・地域包括ケア推進課と包括あつみ職員と各団体へ介護予防や軽体操の現地指導を行った。 ・新規申請や実施方法等の相談を随時受け付ける。 	◎	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6団体が計画通りに月2回以上の活動を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交付団体が増えるように、温海地区支え合い訪問活動と連携し事業の周知を行い団体等の育成の必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア推進課と包括あつみ職員と各団体へ介護予防や軽体操の現地指導を行う。 ・新規申請や実施方法等の相談を随時受け付ける。 ・温海地区支え合い訪問活動と連携し事業の周知を行う。 												
16	高齢者が健康で生き生きとした地域の実現(地域生活を支える体制の充実) 高齢者施設運営事業(高齢者生活福祉センター運営業務委託料) (継続)	市 事業実施団体	在宅での生活に支障がある高齢者に、一定期間住居を提供し、各種相談、助言及び緊急時の対応を行う。 (温寿荘内生活支援ハウス)	4,363	<ul style="list-style-type: none"> ・避暑利用(7～9月末まで)と越冬利用(12～3月末または4月末まで)を予定しているほか、緊急に対応する案件(虐待など)が確認された場合の一時避難所としての利用 ・利用者へ感染予防対策の周知 	<p>利用状況</p> <table border="1"> <tr> <td>4月 利用者1人</td> <td>利用日数延べ 4日</td> </tr> <tr> <td>12月 利用者4人</td> <td>利用日数延べ113日</td> </tr> <tr> <td>1月 利用者5人</td> <td>利用日数延べ151日</td> </tr> </table> <p>以下見込</p> <table border="1"> <tr> <td>2月 利用者5人</td> <td>利用日数延べ140日</td> </tr> <tr> <td>3月 利用者5人</td> <td>利用日数延べ155日</td> </tr> <tr> <td>計 利用者6人</td> <td>利用日数延べ563日</td> </tr> </table> <p>夏季の避暑利用がなかったことから、昨年度より少ない利用の見込み。</p>	4月 利用者1人	利用日数延べ 4日	12月 利用者4人	利用日数延べ113日	1月 利用者5人	利用日数延べ151日	2月 利用者5人	利用日数延べ140日	3月 利用者5人	利用日数延べ155日	計 利用者6人	利用日数延べ563日	◎	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避暑利用はなかった。 ・入居中に伝染力の高い疾患に感染した場合、自宅療養となるため、入居前に予防接種やワクチン接種の協力をお願いしたところ、全員から協力をいただき、り患者はなかった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めての利用者においては、環境の変化から認知症状の悪化が懸念される場合があり、その対応が必要である。 ・多くの利用者が単身世帯だが、伝染力の高い疾患に感染した場合、自宅療養が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避暑利用(7～9月末まで)と越冬利用(12～3月末または4月末まで)を予定しているほか、緊急に対応する案件(虐待など)が確認された場合の一時避難所としての利用を見込む。 ・利用者へ感染予防対策の周知。
4月 利用者1人	利用日数延べ 4日																				
12月 利用者4人	利用日数延べ113日																				
1月 利用者5人	利用日数延べ151日																				
2月 利用者5人	利用日数延べ140日																				
3月 利用者5人	利用日数延べ155日																				
計 利用者6人	利用日数延べ563日																				

NO	総合計画または地域振興計画上の位置づけ 事業名	事業主体	事業内容	R7事業費 (千円)	令和7年度取組予定	令和7年度取組実績 (年度末見込み)	取組評価		令和8年度取組予定
							達成度	評価・課題	
【産業建設課】									
17	あつみ温泉と道の駅を拠点とした地域振興 【地域まちづくり未来事業】 道の駅あつみ商品開発プラットフォーム事業 (R7新規)	事業実施団体	新道の駅で地元産食材を活用した魅力的な商品を展開するため、地域農林漁業者、加工事業者、現道の駅等が相互連携した6次産業化組織を形成し、商品開発・試作・テスト販売を実施する。	500	・地域内の商品開発プラットフォーム組織の設立 ・商品開発アドバイザーの委嘱、地域産食材を活用した新商品開発 ・試作品の製造、テスト販売、モニタリング	補助事業を活用した取組を計画したが、商品開発まで見込める事業者がなかったため、予定された事業達成とはならなかったが、道の駅整備運営事業者による地域産食材を使った商品モニタリング、アンケート調査を市内・温海地域内物販イベント、市政報告会等において実施し、一部商品について商品化できた。	△	【評価】 ・当該事業の取り組みでは、目標達成に至らなかったが、道の駅整備運営事業者による取組により、新商品販売がなされた。 【課題】 ・商品開発については、事業者の専門性を活かした役割分担による事業を進める必要がある。	事業を計画に基づいて適切に進めることのできる事業者を選定し、6次加工品の開発・販売までを一体的に推進する体制構築を進めていく。
18	あつみ温泉と道の駅を拠点とした地域振興 【地域まちづくり未来事業】 温海地域水産物販売実証実験事業 (継続)	事業実施団体	令和9年開業予定の新道の駅においては地元産の鮮魚等を取り扱った事業展開が期待されており、実証実験事業を通して、「漁業のまち鼠ヶ関」のイメージ構築を目指す。 ・「紅えび」を使用した目玉商品開発	540	・前年度までと同様に鮮魚等販売を行うが、令和7年度は土日祝日、ゴールデンウィーク、お盆等集客効果のある日程に絞って開催する。 ・年間60日程度	「しゃりん」のバザールに「さがなあや」を設置し、テナント等が取り組んでいる鮮魚等の実証販売を支援した。鮮魚販売について、土日祝日、ゴールデンウィーク、お盆等集客効果のある年間60日に絞って開催した。 下記の日程でアンケート調査を実施した。 10月25日(土) 鼠ヶ関港カニ・エビ甲殻祭り 10月26日(日) 温海農林水産まつり	◎	【評価】 ・実証実験した商品開発の中で、寿司については、単品・盛り合わせともお客様の需要が高かった。 【課題】 ・「うえるかぶ」※での取り扱い、今後、出店予定しているテナントに対して、本事業の実績による展開ができるように支援が必要と考えられる。 ※「うえるかぶ」 令和9年移転開業予定の道の駅あつみの愛称	【令和7年度で事業終了】 道の駅整備運営事業者や水産物を販売するテナントと連携し、これまでのノウハウを生かした商品展開に繋げる。
19	交流・連携の推進と基盤の整備(高速交通ネットワークの充実) 道の駅あつみ移転整備事業 (継続)	市 事業実施団体	・令和9年開業予定の新道の駅の運営事業者が実施する業務のモニタリングを行う。 ・移転後における現道の駅の跡地活用等の検討を行う。 ・「道の駅通信」を定期的に発行し、本事業に関する情報提供を行う。	(移転整備) 1,599,074 (地域振興) 1,040	【移転整備事業関連】 ・DBO事業(設計建設)モニタリング ・鼠ヶ関川親水広場実施設計 ・駅舎建築、駐車場、外構工事発注(工期：R7夏～R8秋予定) ・事業用地の取得(土地取得及び造成工事を依頼した市開発公社からの買戻し) 【地域振興事業関連】 ・地域事業者と連携した商品開発、6次産業化による地域活性化 ・水産物販売実証実験事業 ・現道の駅取引事業者、出荷者、テナント業者の新道の駅への引継ぎ ・現道の駅跡地利用の基本的方針及び具体的方針の検討	・道の駅整備運営事業者「柘夕陽コミュニティ」との月1回の定例会議等によって事業者のモニタリングを行うと共に、課題事項別の分科会を開催し、事業推進を図った。 ・5月16日(金) 屋外遊具施設説明会(保育園) ・8月19日(火) 工事説明会 ・8月30日(土) 安全祈願祭 ・10月 愛称募集、11月「うえるかぶ」に決定 ・12月 ログマーク募集 ・随時 市内・温海地機内物販イベントでのチラシ配布によるPR ・道の駅「しゃりん」跡地の検討	○	【評価】 ・モニタリングや各種会議によって、実施計画の策定並びに事業の進捗に繋がった。 【課題】 ・移転後の施設の魅力や地域観光資源を効果的に発信する施策を行い、誘客促進と機運醸成に繋げていく必要がある。	【移転整備事業関連】 ・建設工事 ・DBO事業モニタリング業務 ・道路改良(市道奥田線) ・臨時駐車場整備工事 ・鼠ヶ関川親水広場整備 【地域振興事業関連】 ・施設の魅力や観光資源を発信するプロモーション活動 ・オープン前のイベント開催支援 ・地域住民への情報提供 ・道の駅「しゃりん」跡地の検討
20	快適な都市環境の形成(多様な機能を有する公園・緑地の整備と保全) 温海公園整備事業 (継続)	市	指定管理者制度への移行を見据え、あつみ温泉の拠点施設である温海公園「ばら園」の魅力向上のため、施設の改修を進める。	40,000	・実施設計に算出した事業内容について、地元と協議し予算の範囲内で内容を確定し、魅力ある施設の改修を行う。 ・事業実施は、施工に工夫が必要であり、丁寧な現場管理や関係機関との協議を通常以上に行い、新道の駅開業に合わせた供用開始を目指す。 ・温海公園スロープ設置 ・温海公園環境整備 ・バラ園ステージ解体撤去 等	温海公園(あつみ温泉ばら園)は、地元と協議し設計した内容で、関係機関と調整しながら現場管理を行い工事を実施した。 ・温海公園スロープ設置 ・温海公園環境整備 ・あつみ温泉ばら園ステージ解体撤去等	◎	【評価】 地元団体と協議し、実施設計に基づいて施工できた。 【課題】 今後の改修工事は、あつみ温泉ばら園としてのクオリティを高める必要がある。また、指定管理者制度導入に向け、業務内容の精査を進める必要がある。	あつみ温泉ばら園改修 ・安全柵設置 ・園路改修 ・花壇改修 ・バラ植栽等 指定管理者制度導入の準備

NO	総合計画または地域振興計画上の位置づけ 事業名	事業主体	事業内容	R7事業費 (千円)	令和7年度取組予定	令和7年度取組実績 (年度末見込み)	取組評価		令和8年度取組予定
							達成度	評価・課題	
21	自然・歴史・文化を生かした交流人口、関係人口の拡大 【地域まちづくり未来事業】 温海地域体験旅行推進事業 (継続)	事業実施 団体	SDGs教育旅行や体験型観光の受入を行うNPO法人の誘致活動等を支援し、交流人口の拡大と着地型観光の促進を図る。	2,300	・教育旅行受入れ数の拡大 ・キャンプ事業の受入れ拡大 ・代理店等への訪問営業の推進 ・農業体験など新体験メニュー造成	・教育旅行受入実績：3校 宮城県内中学校：2校 市内中学校：1校 延べ403名 ・個人・団体受入数：673名 ・バリアフリーイベントの共催による障がい者受入（4回） ・日本財団助成事業「鼠ヶ開灯台100周年記念事業」への参画（地元関係団体とのコンソーシアム） ・キャンプ事業の実施 ・仙台市内旅行代理店への営業活動	◎	【評価】 ・減少傾向だった教育旅行の受け入れは1校増加した。新たに市東京事務所と連携したバスツアー受入や、日本財団助成事業への参画等によって、自然体験受入数の増加や新たな体験メニュー展開に繋がった。 【課題】 ・事業のニーズがコロナ禍の収束によって、教育旅行受入れより自然体験受入れが主な事業となりつつある。事業者の安定した運営に向けて、収益確保に取り組む必要がある。	・教育旅行受入れ数の拡大 ・自然体験事業の受入れ拡大 ・旅行代理店等への訪問営業活動 ・バリアフリーイベントや灯台活用事業等、鼠ヶ開海岸をフィールドとした事業の共催 ・道の駅移転整備事業と連携した誘客の検討
22	地域特性を生かした農林水産業の振興 【地域まちづくり未来事業】 温海地域在来作物振興事業（継続） ①焼畑あつみかぶの振興 ②越沢三角そばの振興	市 事業実施 団体	在来作物である「焼畑あつみかぶ」と「越沢三角そば」について、生産振興などの活動を行う団体へ支援を行い、ブランド化と生産振興、後継者育成、交流人口の拡大等を図る。	1,205 (焼畑あつみかぶ) 815 (越沢三角そば) 390	(焼畑あつみかぶ) ・焼畑あつみかぶブランド力向上対策協議会が取組む活動を支援する。 (越沢三角そば) ・まやのやかた越沢三角そば生産組合が取組む活動を支援する。	【焼畑あつみかぶ】 ・新規生産者育成支援（栽培チャレンジサポート事業）の実施：4団体 ・労働力確保事業の実施（11月） ・栽培圃場実証事業の実施：3箇所 ・農林水産イベントの開催、参加（11/9、12/14ほか） ・販促ツールの作成 【越沢三角そば】 ・栽培講習会などの実施（7月） ・そば打ち講習会の開催（12月） ・先進地視察（7月大蔵村） ・首都圏等でのプロモーション活動の実施（2月、埼玉・東京） ・チランヤのぼり旗などの作成	◎	【評価】 市総合計画のKPI(目標指数)を達成することはできたが、焼畑あつみかぶの令和7年度の生産数量は、過去最低の25tとなり目標値の110tに届かなかった。 ・焼畑あつみかぶ販売単価 269円 (KPIは230円) ・越沢三角そばの栽培面積 159,470㎡ (KPIは150,000㎡) 【課題】 焼畑あつみかぶ ・生産者の高齢化や近年頻発する異常気象、獣害被害等の中でも安定した生産量を確保する必要がある。 越沢三角そば ・組合員の高齢化と組合員数の減少が進んでおり、今後、栽培面積の減少が懸念される。反収が伸びておらず、栽培技術向上等の取組が必要である。	生産量の増加や品質の維持、向上、組織体制の見直しなどが抱える課題を解決するため、それぞれの団体が行う活動への支援を継続する。
23	あつみ温泉と道の駅を拠点とした地域振興 地域特性を生かした農林水産業の振興 【地域まちづくり未来事業】 温海地域小ロット農産物生産振興事業 (継続)	事業実施 団体	新たな道の駅を見据え、少量多品種の農産物等の生産振興を図るため、販売活動の推進と地産地消の拡大に向け、令和4年設立された産直活動組織「あつみ旬菜会」の活動を支援する。 ・産直活動円滑化支援 ・販売活動活性化	265	・視察研修や農産物の品質管理研修会など「あつみ旬菜会」の産直組織活動の円滑化や販売活動とともに、会員の6次化加工に向けた取組を支援する。	・道の駅あつみ「しゃりん」のイベント等に出店し、農産物などの販売を実施（4/19や10/26など） ・先進地視察研修を実施（4/25新潟市、10/30大江町ほか）	○	【評価】 ・イベント開催により、販売活動を促進することができた。 ・道の駅での活動継続に向けて先事例を学ぶことで、知識等を得ることができた。 【課題】 ・会員の高齢化により集荷が減少しており、出荷数量の増や集荷体制の強化が必要である。	【令和8年度事業統合】 ・課題に対する取組みを強化するため、「道の駅あつみ振興事業」として新たに事業を実施する。 ・あつみ旬菜会への伴走支援や地域食材の選定から生産、出荷、特産品・6次加工品の開発、販売までを一体的に推進する体制構築を図る。

No	総合計画または地域振興計画上の位置づけ 事業名	事業主体	事業内容	R7事業費 (千円)	令和7年度取組予定	令和7年度取組実績 (年度末見込み)	取組評価		令和8年度取組予定
							達成度	評価・課題	
24	地域経済を支える農業生産の拡大(中山間地域農業の活性化) 鳥獣被害対策事業(継続)	市 事業実施 団体	電気柵等の追い払い用機材の購入費や狩猟免許取得に係る経費の一部補助を行う。また、鶴岡市鳥獣被害対策実施隊による有害鳥獣の捕獲、追い払いを行い、有害鳥獣による農作物被害を防止する。	19,933 (市全体)	・有害鳥獣による農作物被害が拡大しているとともに、畦畔や農地等の圃場への被害も近年多く発生しているため、鶴岡市鳥獣被害対策実施隊と連携し、引き続き被害防止対策や有害鳥獣捕獲への支援を行う。	【農作物被害対策支援】 ・電気柵設置補助:24件 ・鳥獣被害防止地域活動補助:2件 ・不要果樹伐採補助:1件 ・全集落に追い払い用花火の配付 【有害鳥獣の捕獲活動支援】 ・狩猟免許等取得補助:6件 ・猟友会(実施隊)への活動支援補助	◎	【評価】 電気柵の設置や新規狩猟者の育成、市鳥獣被害対策実施隊(猟友会を委嘱)等と連携した有害鳥獣の捕獲活動などにより、農作物被害の防止に取り組むことができた。 【課題】 農作物等の被害は依然として拡大しており、より一層の対策が必要である。	令和8年度の要望調査を元に、電気柵の設置などの活動に対し支援するとともに、鳥獣被害対策実施隊等と連携し、有害鳥獣捕獲活動を継続して行うことで農作物被害の軽減を図る。
25	効率的な木材生産と健全で豊かな森林づくり(担い手の育成・確保) 森林環境教育推進事業(継続)	市	小学生から一般市民、漁業者などが参加し、森林学習や森づくり活動の体験等を行い、森林に対する理解を深めると共に、森林資源の有効活用と後継者の育成を図る。 ・天魄山森林自然教室 ・鼠ヶ関小学校森林環境教室 ・山の活動体験事業 ・ねずがせき魚の森づくり活動	1,317	【天魄山森林自然教室】 ・7月森の恵み学習、森の保全活動 ・8月焼畑あつみかぶ生産活動(焼畑、播種) ・11月焼畑あつみかぶ生産活動(収穫、漬込み)、サケ生産活動の学習 ・3月サケ稚魚の放流体験 【鼠ヶ関小学校森林環境教育事業】 ・6月自然教室 ・9月竹林整備体験、焼畑あつみかぶ栽培体験(焼畑・播種) ・10月竹細工体験 ・11月焼畑あつみかぶ栽培体験(収穫・漬込み) 【ねずがせき魚の森づくりの会】 ・7月 第1回魚の森づくりの会 下刈り作業 ・10月第2回魚の森づくりの会 下刈り作業 【山の活動体験事業】 ・9月サラリーマン林太郎 【シン林业セミナー】年6回開催 温海町森林組合(本所予算)	【天魄山森林自然教室】 予定どおり実施 【鼠ヶ関小学校森林環境教育事業】 予定どおり実施 【ねずがせき魚の森づくりの会】 予定どおり実施 【山の活動体験事業】 ・フォレストフィールセミナーと事業統合 【フォレストフィールセミナー】 ・年6回 開催(本所予算) ※「シン林业セミナー」から名称変更	◎	【評価】 森林学習や森づくり活動の体験を通して、森林機能に対する理解を深め、環境保全に取り組む意識の醸成を図ることができた。 【課題】 地元事業者を中心に講師としての指導をお願いしてきたが、高齢化等により講師の引き受けが困難となりつつあるため、取組内容を見直す時期にきている。	【天魄山森林自然教室】 ・7月森の恵み学習、森の保全活動 ・8月焼畑あつみかぶ生産活動(焼畑、播種) ・11月焼畑あつみかぶ生産活動(収穫、漬込み)、サケ生産活動の学習 ・3月サケ稚魚の放流体験 【鼠ヶ関小学校森林環境教育事業】 ・6月自然教室 ・9月竹林整備体験、焼畑あつみかぶ栽培体験(焼畑・播種) ・10月竹細工体験 ・11月焼畑あつみかぶ栽培体験(収穫・漬込み) 【ねずがせき魚の森づくりの会】 ・7月 第1回魚の森づくりの会 下刈り作業 ・10月第2回魚の森づくりの会 下刈り作業 【フォレストフィールセミナー】 ・年6回 開催(本所予算)
26	効率的な木材生産と健全で豊かな森林づくり(木材生産の拡大) 林道念珠開線開設事業(継続)	市	山形県による代行事業として、横代と早田を連結する新たな基幹林道を開設する。 市は、事業の進捗に応じて用地取得及び支障木伐採等を行う。 (計画期間:平成28年~令和7年)	11,400	【早田地区】L=500m ・立木調査 ・立木補償 ・支障木伐倒搬出 【林道工事の推進】 ・鶴岡市重要事業として、県へ要望	【早田地区】 ・立木調査 ・立木補償 ・用地測量 ・用地買収 ・支障木伐倒搬出 【林道工事の推進】 ・林道工事の推進 ・鶴岡市重要事業として、県へ要望 ・事業期間延長を要望	◎	【評価】 ・市の事業については、県代行による工事に支障がないように対応できた。 【課題】 ・事業期間が5年延長となったが、延長期間内での完成見込みが望めないため、引き続き事業進捗状況確認と事業推進への要望が必要である。	【早田地区】L=120m ・立木調査 ・立木補償 ・用地測量 ・用地買収 ・支障木伐倒搬出 【林道工事の推進】 ・鶴岡市重要事業として、県へ要望 ・事業推進に向けた要望
27	地域特性を生かした農林水産業の振興 【地域まちづくり未来事業】 温海地域伝統的工芸品振興事業(継続)	事業実施 団体	国の伝統的工芸品に指定されている「羽越しな布」の後継者育成や原材料の確保、需要の拡大等に資する取組を支援し、保存・伝承を図る。	490	・羽越しな布振興協議会が行う「羽越しな布」の後継者育成や原材料確保、需要拡大等に係る事業に対し、補助金交付による支援を継続する。 また、実施団体の組織弱体化が著しいことから、後継者不足解決のための仕組みづくり、組織体制強化について提案、助言を行う。	【後継者育成事業】 ・しなの木の保育、原材料採取研修 ・糸づくり研修会(月1回) ・市街地での糸づくり体験教室(4回開催) 【需要開拓・販路開拓事業】 ・首都圏等での展示会への参加(福島・東京の催事、大阪関西万博)	◎	【評価】 ・しなの木の保存・伝承、需要拡大のための事業を展開することができた。 ・新たな事業として市街地での糸づくり研修会を開催し、しなの木の魅力を伝える他、後継者・担い手育成へのきっかけづくりに繋がった。 【課題】 ・後継者不足による原材料の供給体制の解消には至っていないため、今後も後継者育成が必要である。 ・原材料不足の影響によって積極的な新規販路拡大に至っていない。	・羽越しな布振興協議会が行う「羽越しな布」の後継者育成や原材料確保、需要拡大等に係る事業に対し、補助金交付による支援を継続する。 また、実施団体の組織弱体化が著しいことから、後継者不足解決のための仕組みづくり、組織体制強化について提案、助言を行う。

※達成度…◎達成、○概ね達成（概ね順調に進んだ）、△達成できなかった、×未実施

NO	総合計画または地域振興計画上の位置づけ 事業名	事業主体	事業内容	R7事業費 (千円)	令和7年度取組予定	令和7年度取組実績 (年度末見込み)	取組評価		令和8年度取組予定
							達成度	評価・課題	
28	あつみ温泉と道の駅を拠点とした地域振興 【地域振興事業】 道の駅あつみ振興事業 (令和8年度新規事業)	事業実施 団体	新たな道の駅あつみのコンセプトである「日本海の自然と食と遊びのテーマパーク」に基づいた、観光拠点としての整備や活用・情報発信と温海地域ならではの食の特産品開発及び販路拡大を図る。	—	—	—	—	—	(1)道の駅あつみ物産振興支援 生産者団体などを伴走支援するほか、地域食材の選定から生産、出荷、特産品・6次加工品の開発、販売までを一体的に推進する体制を構築する。 (2)道の駅あつみ誘客促進事業 道の駅あつみの魅力や温海地域の観光資源を効果的に発信するため、市内外への情報発信を強化する。 ①県外等プロモーション活動 ②道の駅あつみ集客振興事業

○令和8年度から「地域まちづくり未来事業」は「地域振興事業」に名称が変わります。